

令和7年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

【ダイジェスト版】

文： 中島 洋己

(一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

令和7年度第39回東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選が令和8年1月24日に三島南高校他で開幕する。初日に1,2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント、週をまたいで3日目に舞台を香陵アリーナ(沼津市総合体育館)に移して決勝リーグ第2戦と順位決定戦、最終日に決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月14,15日に平成30年・愛知インターハイの会場にもなった愛知県一宮市・いちい信金アリーナ(一宮市総合体育館)で開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に県代表としてコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

ここで今回の県新人大会に関するトピックをいくつか紹介したい。

まず、今回も「7位決定戦」を行う。昨年のこの大会から導入され、今年度の県総体でも行われてこの勝敗が次大会の組み合わせに大きく影響することが証明された。あくまでも「新人戦」でありどのチームも公式戦の試合数をこなしたいと思惑があるのは当然で、ベスト8に入れば必ず3試合が付帯してくる。今大会でも目の前の勝負だけでなくインターハイのドローにも大きく影響を与えることになり、正確なシード順のやぐらを組むためにも7位決定戦を行うことは大歓迎である。昨年の静岡学園一基山戦、静岡東一静岡商業戦も期待に違わぬ好ゲームであった。

そして、県新人大会が沼津に帰ってきたことも取り上げたい。従来県新人の最終週は東部地区で開催されることが多く、富士宮市民体育館や昨年は御殿場市体育館で開催された。沼津市では令和5年に惜しまれつつ閉館となった沼津市民体育館が長く「聖地」としての役割を務め、平成27年度まで県総体・県新人で使われ続け、特に最後の県大会開催となった平成27年度の県新人・女子では浜松開誠館を破った浜松学院(現浜松学院興誠)が見事初優勝を飾ったことはいまだに多くのファンの脳裏に残る。同時に翌シーズンから9年間に渡る浜松開誠館の県内連勝が始まった画期的な大会でもあった。今回10年ぶりに県新人が沼津に戻り、一昨年に竣工された香陵アリーナでの高校バスケ県大会のこけら落としとなる大会である。

最後に県新人特有のレギュレーションも確認しておきたい。県総体は全チームに地区予選の出場義務が課されているが、県新人ではウインターカップに出場したチームは地区予選免除・県高体連推薦枠として出場、各地区予選優勝チームと同格の扱いとなる。また上位4チームは県総体ではトーナメント制(3位決定戦実施)だが、県新人では育成段階での試合数確保の意味合いも含めて決勝リーグ制を行う。何度もこの展望でも触れ続けているが、リーグ戦になった場合は試合順・相性・日程そして得失点差などさまざまな要因が複雑に絡み合ってくる。昨年のこの大会女子では2試合終わった段階で全チームが1勝1敗で並び、最終的に2勝1敗2チーム・1勝2敗2チームで該当チームの直接対決の勝敗で順位が決まるという私の長いバスケ取材歴でも記憶にない幕切れとなった。また昨秋のウインター県予選では男子のみ決勝リーグを行い、最終日を前にしても全国出場が確定せず全4チームに「全国出場」のチャンスが残り、最終試合終了まで常勝王者・藤枝明誠ですら全国を逃すリスクと隣り合わせで戦うというスリリングな展開とな

った。

この大会から年末のウインターカップ 2025 に出場して勝利を挙げた藤枝明誠男子、そして全国屈指の強豪である正智深谷・東海大福岡と接戦を繰り広げた浜松学院興誠男子・浜松開誠館女子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。またこの時期毎年のことだが季節性インフルエンザの流行がすさまじく、静岡県でも「警報レベル」を大きく超える感染者数を記録し続け、一部では学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞く。さらに今年度は流行期が例年よりも早いのが特徴で、「タイプ(型)」が違えば複数回感染する可能性もあり、大会開幕前後に「第二波」が来ることも十分考えられる。空気に色が付けることも出来ず、対応にも限界はあるが各自十分な感染症対策を講じて大会が無事終了ことを願う。また今大会でも県協会公式アプリで全試合の結果を速報する。昨年のこの大会で試行導入してから早 1 年、すでに県内全カテゴリーで活用されて現在では我々にとって欠くことのできない必需品となったこのアプリ、公式 HP とともに今後もさらなる活用と普及を皆様にもお願いしたい。

2 月 1 日には恒例の(一社)静岡県バスケットボール協会 U18 優秀選手表彰式が開催される。年末のウインターでも大活躍し今回男女を通じて唯一の 3 年連続受賞となった野津洸創(藤枝明誠)、そのウインター開会式でチームの 10 年連続出場を称えられ代表として表彰台にも立ち、試合でも 19 得点の大活躍をした前川桃花(浜松開誠館)、正智深谷戦で 24 得点・10 リバウンド・14 アシストを記録し、ウインターで県勢日本人選手初のトリプルダブルを達成し、大会で 1 試合最多アシスト王にも輝いた西垣玲央(浜松学院興誠)、こちらも県内史上初、そして今後もおそらく出てこないであろう「高校生による成年種別での国スポ(国体)スタメン出場」を果たした稻葉叶(東海大静岡翔洋)など全国の檜舞台を踏んだ 3 年生トップアスリートを始め、今年度の県高校バスケを彩ったスーパースターが集う最後の機会となる。今年から U12, U15 に合わせて、U18 カテゴリーも優秀選手は「男女各 15 名(計 30 名)」となり、従来の各 12 名から 3 名ずつの増員となった。これは強化委員会が出来る限り多くの選手の努力と成果を称えたいというプレーヤーズファーストの意向が働いたことは容易に想像がつく。優秀選手たちによる多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでのさらなる活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長(株矢崎部品)を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書けていないが、この場を借りて協力していただいた皆様に心からお礼申し上げたい。そしてこの展望を読んで、少しでも多くの人が実際に会場に行って観戦したいと思ってくれればと思う。

【男子】

今大会も、ワインター県予選でも他チームの追随を許さず圧勝、本戦でも米子東(鳥取)相手に勝利を挙げ、さらにはU18 日清食品ブロックリーグでも全勝優勝を飾り 3月のトップリーグ入替戦の出場を決めた藤枝明誠が頭 1つも 2つも抜けているが、同じくワインターに出場して正智深谷(埼玉)と死闘を繰り広げた浜松学院興誠が藤枝明誠を猛追し、さらに沼津中央の猛攻を凌ぎ地区初優勝を飾った東部王者・韋山、ワインター出場は逃したもの粘る城南静岡を振り切り 6年ぶりに中部新人を制した静岡学園、そしてワインター県予選最終試合で藤枝明誠相手に一歩も引けをとらない素晴らしい戦いを見せて今回の西部新人でも危なげない戦いで 2 年ぶりの優勝を飾った浜松開誠館の地区王者が、新チーム始動からまだ 1 ヶ月程度の上昇王者の隙を突いて東海新人出場はもちろん、一気に県制覇すべく鼻息荒く待ち構える展開が予想される。まさに 5 チームを中心とした優勝争い、地区予選上位チームも含めた東海新人出場争いにも注目が集まる。

左上のブロックは、県新人 3 連覇中の藤枝明誠の実力が群を抜くが、昨年大会 5 位の沼津中央や昨年 2 大会で 4 強入りを果たした静岡商業、そして県総体・ワインター予選ベスト 8 の浜松西という公立・私立の強豪が集うブロックとなった。

ワインター出場による推薦が 2 チーム出たため左下のブロックが最激戦になることは想定内だったが、今回は東部王者・韋山とワインターに出場した浜松学院興誠が順調に行けばブロック決勝で直接対決するまさに「死のブロック」と言える。

右上のブロックは、前回準優勝の西部王者・浜松開誠館を昨年 6 位の城南静岡が追い上げる展開が予想され、歴代最多 11 回の優勝を誇る飛龍と中部 4 位島田工業もブロック決勝進出を目指して戦いに挑む。

右下のブロックは、中部王者・静岡学園と西部新人準優勝の浜松商業の決勝リーグ進出争いに中部 3 位の静岡大成が割って入れるかが注目となる。

【女子】

今大会も現在県内大会 27 連覇、10 年近く他チームに賜杯を渡していない無類の強さを誇る浜松開誠館の総合力が断然群を抜いている。そのような状況下でも、ウインター県予選準優勝の市立沼津、昨年全大会で県 8 強を堅持し今回圧倒的な実力で中部を制した常葉大常葉、そして昨年準優勝の浜松南などの地区王者が無双女王を倒して賜杯奪還を目指す展開が予想される。昨年はこの大会で 10 年続いた浜松開誠館の連勝が止まった事実が改めて全国大会出場チームにとって県新人大会の難しさが浮き彫りになった。新チーム始動時期に差があり、始動して半年以上経過しているチームもあれば、ウインター予選後に始動、さらには本戦終了直後の年末に始動し約 1 ヶ月で予選なしの県大会、今年初の公式戦となることから、強豪チームほど調整が難しいことは明らかだがその点も踏まえながら各チームの初陣(ういじん)に注目したい。

左上のブロックは、大会 8 連覇中の浜松開誠館が群を抜く強さを誇るのは周知の事実、その王者とブロック決勝での対戦を賭けて、東部 3 位の三島北と中部 3 位・静岡商業の対戦が予想される。

左下のブロックは、前回大会準優勝・西部王者の浜松南が一歩抜けている感があるが、ブロック決勝での対戦が予想される東部新人準優勝・沼津商業もウインター予選・浜松開誠館戦で見せた攻め気満点のバスケットを見せればさらに興味深い展開になるだろう。

右上のブロックは、順調に勝ち上がれば中部王者・常葉大常葉と西部新人準優勝・浜松学院興誠が昨年来 4 度目の対戦がブロック決勝で実現する。果たして常葉大常葉の「4 度目の正直」は成るだろうか、ブロック決勝屈指の好カード、どちらに勝利の女神が微笑むのか全く予想がつかず今回も残り 1 秒までわからない熾烈な戦いになるはずだ。

右下のブロックは、東部王者・市立沼津と中部新人準優勝・藤枝順心のウインター予選準決勝の再戦がブロック決勝で実現する公算が高いが、西部新人 3 位の浜松市立、前回大会 7 位の静岡東、昨年県新人 4 位・県総体準優勝の東海大静岡翔洋などの実力校が集まる「激戦区」、まさに真冬に戦う「1 番熱いブロック」となるであろう。